



JSPE Magazine Quarterly

The Japan Society of Professional Engineers

トップページ

Oregon PE は更新時に CPD organizational form の提出が必要です。

2011年の The Oregon Administrative Rules BOARD OF EXAMINERS FOR ENGINEERING AND LAND SURVEY 820-010-0635 が更新されました。

「Every registrant will report their PDH units on the Continuing Professional Development (CPD) Organizational form and submit to the Board office with the renewal form and fee.」

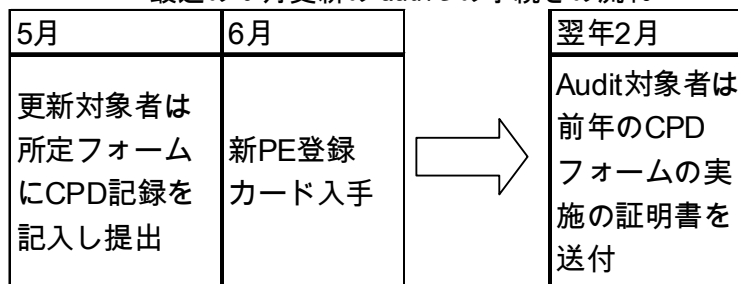
と書かれており、更新時 CPD Organizational form の提出を求められますので、事前に準備を行ってください。

FORMはURL <http://www.oregon.gov/OSBEELS/renewals.shtml> からダウンロード出来ます。

Audit の場合の更新手順が変わりました。

6月更新の PE は 2月ごろ Audit の通知受領後、CPD の記録を提出していましたが、最近では 5月に提出した CPD フォームに対して証明書を翌年の 2月ごろに提出を求められます。

最近の 6月更新の audit の手続きの流れ



トップページ ;

PE 更新 ; P1

継続教育 (CPD) の証明 P3

オレゴン州試験資格認定委員会情報 ; P 6

PE 登録リファレンス ; P 10

PE 試験合格体験記 ; P 11

PE マニュアル ; P14

PE 会員のためのページ :

私の PDHaudi ; P15

海外からの連絡 ; P17

会員からの投稿 ; P18

理事会ニュース ; P21

Coming event ; P22

新入会員紹介 ; P22

既に JSPE magazine 2011 年 7月号、10月号及び 2012 年 1月号で PE registration renewal の記事を掲載してきましたので参照ください。

今回は OREGON 820-010-0635 Continuing Professional Development の 2004 年版と 2011 年 7月号版を比較して PE 更新時の注意事項を最近の動向から調べました。

1. CPD organizational form の提出

2011 年版で (1) 要求事項で各登録者は CPD organized form を提出しなければならない。一方 2004 年版では提出の記載はなく、PDH30 時間を 2 年間で取得する事を要求しているのみである。従って、登録者は更新時に CPD organizational form 提出をしなければならないので準備が必要である。

2. Supporting documentation

CPD の証明書はボードから求められたときに提出しなければならない。

この記載は 2004 年版と 2011 年版で変わりはない。

従って、登録者は更新時に CPD organizational form のみを提出すれば良い。

3. CPD として認められない活動

2011 年版の変更の大きな特徴は PDH としてカウントできない活動を明記したことである。

その活動は以下である

- (a) 通常の職業;
- (b) 不動産免許コース
- (c) 個人不動産もしくは資産運用
- (d) 個人の啓蒙
- (e) 社会奉仕クラブの会合もしくは活動
- (f) 装置の運転デモもしくは商業目的の展示
- (g) 技術、測量もしくは写真測量に関係のないテーマ
- (h) コースやセミナーには出席しない参加（見学や展示会の参加等と思われる）
- (i) 同じコースへの再参加
- (j) 同じ授業でのくり返しの講義
- (k) あらゆるのビジネス会議や委員会会議
- (l) 専門もしくは要求される試験の受験

この中で注意しなければならない項目としては

展示会などの見学は認められないので、展示会に付属しているセミナーやコースを受けなければならない。

又、あらゆるビジネス会議や委員会会議も認められないが(5)章では専門技術分野の委員会や団体に積極的な参加は最大 2 年間で 8 PDH ユニットを認められている

従って、Attending committee meetings or general business meetings of any organization; は認められないが Active participation in professional or technical society, は最大 2 年間で 8 PDH ユニットを認められている。ここで Attending と Active participation の区別を明確にしなければならない。

4. CPD として認められる活動

2004 年版から追加となったのは

- (b) インターネットや TV 及びビデオでのショートコース、チュートリアル単位の取得
- (c) セミナーや社内教育コース研究発表会、専門の展示会の積極的参加

専門技術分野の委員会や団体に積極的な参加は最大 2 年間で 8 PDH ユニット と 2004 年版の 2 ユニットから増加されている。

継続教育 (CPD) の証明に関して

教育部会副部長 阪井敦

現在、Professional Engineer (PE) に対して、継続教育 (CPD : Continuing Professional Development) を要求している州は多くあり、要求されていない州でも今後は要求される方向にあります。例えば、Oregon 州は、2 年間で 30PDH (Professional Development Hours) が必要となっています。以下の表に、NCEES Model Rules および Oregon Administration Rules による CPD 付与の基準の抜粋 (JSPE 会員が関係しそうな部分) と JSPE の関与 (JSPE による CPD 証明証の発行) について示します。

	NCEES Model Rules	Oregon Administration Rules	JSPE
1	大学でのコース履修 継続教育コース履修	他の団体でのコース履修 1 Semester hour = 45PDH 1 Quarter hour = 30PDH	JSPE 関与しない 各自で申請
2	各種通信教育類 セミナー、組織内教育、講習 会等への参加および発表	通信教育等の受講 セミナー等の参加 セミナー等での講義	JSPE 主催セミナーは 1h = 1PDH の CPD 証を発行
3	公刊論文、書籍、資格試験問 題の執筆	技術的な本、論文、記事の著 者、共著 max 10PDH / 2 年	JSPE マガジンへの投稿は、PDH 記載ない Certificate 発行 時間は各自で申請
4	専門職協会、技術協会での積 極的活動	専門技術分野委員会や団体へ の積極参加 max 8PDH / 2 年	JSPE 活動への参加は、PDH 記 載ない Certificate 発行 時間は各自で申請
5	特許の取得 (登録)		JSPE は関与しない 各自で申請
6	自主学習	能力向上に役立つ自主学習 max 6PDH / 2 年	JSPE は関与しない 各自で申請
7	非技術的教育活動など	技術以外の学習活動	JSPE は関与しない 各自で申請
8		自分の配下技術者への指導 10h = 1PDH max 4PDH / 2 年	JSPE は関与しない 各自で申請

2 の JSPE 主催セミナーは PDH が記載された CPD 証、3 の JSPE マガジンへの投稿、4 の JSPE 活動への参加は PDH の記載のない Certificate を発行しますが、その JSPE が発行した CPD 証

あるいは Certificate を承認するかどうかは、米国各州の判断に委ねられています。ただ、実績として、JSPE が発行した CPD 証は承認されています。

PE 資格更新時は、2 年間で獲得した PDH 数を記載するだけですが、運良く Audit にかかった場合は、それを証明する資料を提供する必要がありますので、PE 会員の方は、以下の準備を日ごろから行っておくことをお勧めします。

(1) JSPE主催のCPDセミナーへの参加

①集計表を作る

何年何月何日に何 CPD 獲得したかをエクセル等で表にして集計する

②CPD 証をファイルしておく

セミナー参加の証である JSPE が発行する CPD 証を透明ファイル等に集めておく

この時、CPD 証の上部に自分の名前を記載しておく

③セミナー資料をファイリングしておく

実績的には、上記 CPD 証の提出で承認されますが、州によっては追加資料を要求される恐れがありますので、セミナー資料も整理してファイリングしておく

(2) JSPEマガジンへの投稿

①集計表を作る

投稿日、掲載日、要した時間などをエクセル等で表にして集計する

(Oregon 州は 2 年で 10PDH までの制限があります)

②Certificate をファイルしておく

③投稿された文書のコピーをファイリングしておく

(3) 技術系雑誌への投稿

①集計表を作る

投稿日、掲載日、要した時間などをエクセル等で表にして集計する

(Oregon 州は 2 年で 10PDH までの制限があります)

②投稿された文書のコピーをファイリングしておく

日本語の場合は Summary を英語で作成しておく

(4) JSPE活動への参加

①集計表を作る

活動日、要した時間などをエクセル等で表にして集計する

(Oregon 州は 2 年で 8PDH までの制限があります)

②Certificate をファイルしておく

活動内容を英語でメモしておくことが好ましい

(5) 能力向上に役立つ自主学習

①集計表を作る

活動期間、要した時間などをエクセル等で表にして集計する

(Oregon州は2年で6PDHまでの制限があります)

②自主学習の内容をレポートにしておく

少なくとも Summary は英語でまとめておく

以上のような準備をしておけば、いつ Audit に当選しても大丈夫です。以下に、筆者の 2010 年 7 月からの集計表を参考として示します。教育部会で活動していますので、JSPE セミナーが多くなっていますが、遠隔地でセミナーに参加できない場合は、自主的な活動で、

技術雑誌への投稿 : 10PDH/2 年

学会等への積極参加 : 8PDH/2 年

自主学習 : 6PDH/2 年

24PDH は獲得できますので、残り 6PDH 分だけをセミナーで確保すれば良いことになります。まず、集計表を作成して 2 年間の計画を立案することをお勧めします。

日付	JSPE講座	JSPE講師	雑誌投稿	その他	備考	累計
2010.7.24	2.5				JSPE169thCPDセミナー	2.5
2010.9.4	2.5				JSPE170thCPDセミナー	5.0
2010.9.4		4.0			JSPE168thCPDセミナー	9.0
2010.10.9	3.0				JSPE173rdCPDセミナー	12.0
2010.11.6	2.5				JSPE174thCPDセミナー	14.5
2010.11.6	4.0				JSPE171stCPDセミナー	18.5
2010.12.4	1.5	1.5			JSPE177thCPDセミナー	21.5
2011.1.22	4.0				JSPE175thCPDセミナー	25.5
2011.3.26	2.0				JSPE技術見学会	27.5
2011.4.2		4.0			JSPE179thCPDセミナー	31.5
2011.5.14	4.0				JSPE180thCPDセミナー	35.5
2011.5.14	2.0				JSPE181thCPDセミナー	37.5
2011.6.4	1.5				11th総会セミナー	39.0
2011.6.11	4.0				JSPE182ndCPDセミナー	43.0
2011.7.2	4.0				JSPE183rdCPDセミナー	47.0
2011.9.3		4.0			JSPE184thCPDセミナー	51.0
2011.9.3	1.5				JSPE185thCPDセミナー	52.5
2011.9.17		0.0			168thと同内容	52.5
2011.10.1	2.5				JSPE187thCPDセミナー	55.0
2011.10.1		4.0			JSPE188thCPDセミナー	59.0
2011.11.5		4.0			JSPE189thCPDセミナー	63.0
2011.11.19		0.0			171stと同内容	63.0
2011.12.10		4.0			JSPE194thCPDセミナー	67.0
2012.1.14	4.0				JSPE197thCPDセミナー	71.0
2012.1.21		0.0			175thと同内容	71.0
2012.2.4	4.0				JSPE199thCPDセミナー	75.0
2012.3.31				8.0	2011年度 理事会10回出席(25h)	83.0
						83.0
						83.0
合計	49.5	25.5	0.0	8.0		83.0

オレゴン州試験資格認定委員会情報

今回も OSBEELS（オレゴン州試験ボード）のウェブサイトに掲載されている、Examinations & Qualifications Committee（試験資格審査委員会）の議題・議事録から気になるトピックをお知らせします。今回は 2011 年 12 月 9 日、及び 2012 年 2 月 17 日の議事録が対象となります。

(12 月 9 日)

- オレゴン州立大学の工学カレッジの準学部長が、教授陣の総意として、FE などの受験申請にサインすることは法的に見て違和感がある、との見解を述べた。彼は、試験ボードの要求に適合することは結局学生の責務であり、教授がそれを保証することはできない、との意見を表明した。委員会では、同大学からの申請者数名について、サインの代わりに準学部長からの書簡を以って法の意図に準拠するものとみなし、試験申請を受理する決定をした。
- 2011 年 4 月に FE 試験を受けた二人の受験者が、試験後 6 カ月以内に、科目と日付の記載された成績証明書を提出しなかったため、試験結果を無効とされた。両受験者はヒアリングを要求した。
一人の受験者は、ABET ないしは ACCE 適合のプログラムに基づく学位を持っておらず、以下の 9 科目のうち最低 6 つの履修証明を求められた。
微分方程式、物理学、統計学、静力学、同力学、熱力学、流体工学、電気基礎、材料力学
彼女の成績証明書ではこのうち 5 つしか記載がなかった（その後どうなったか議事録に記載なし）。
もう一人の受験者からは成績証明書の提出がない。
- 同じく 2011 年 4 月の FE 試験者が、試験後 6 カ月以内に、科目と日付の記載された成績証明書を提出しなかったため、試験結果を無効とされた。彼は特例扱いを求めるレターを提出したが認められなかった。
- 受験申請
 - FE 申請者: ABET ないしは ACCE 適合のプログラムに基づく学位を持っておらず、上記 9 科目のうち最低 6 つの履修証明を求められ、6 つを証明。2011 年 4 月の試験結果を有効と見做された
 - FE 申請者: ABET ないしは ACCE 適合のプログラムに基づく学位を持っておらず、上記 9 科目のうち最低 6 つの履修証明を求められたが、3 つしか証明できず、2011 年 4 月の試験結果を無効と見做された
- Comity (他州エンジニア) 申請
 - Civil & Structural PE 申請者: 2002 年 5 月に工学物理学位、2002 年秋～2003 年秋に学習課題履修（議事録に科目明記なし）、9 年 4 カ月の civil 及び structural の工

学経験を記載した職歴表と、工学経験を証明する5通のリファレンスを提出。また Idaho 州から発行された、NCEES の FE 試験 (2004 年 10 月)、Civil の PE 試験 (2006 年 10 月)、及び SE (構造工学) I 及び II 試験 (2009 年 4 月) の合格証明も提出 → Structural については不許可、Civil については許可

➤ SE (Structural Engineer) 申請者: Arizona 州に登録有り、1979 年に civil 工学位、20 年以上の civil/structural 工学経験を記載した職歴表と、structural 工学経験を証明する5通のリファレンスを提出。また California 州から発行された、NCEES の Civil PE 試験の合格証明、及び Arizona 州から発行された、NCEES の FE 及び Arizona 州特定の SE 試験の合格証明も提出 → Comity 不許可

➤ Agricultural PSE (Structural Engineer) 申請者: 1977 年 8 月に agricultural 工学位、30 年以上の工学経験を記載した職歴表と、工学経験を証明する5通のリファレンス (うち supervise する professional の分は1通のみ) を提出。また North Dakota 州から発行された、NCEES の FE 試験 (1976 年 4 月) の合格証明、及び Iowa 州から発行された、NCEES の Agriculture PE 試験 (1980 年 10 月) の合格証明も提出 → Comity 許可

- CPD (Continuing Professional Development) 監査

➤ 2011 年 4 月 15 日のミーティングで猶予期間を認められていた → 学習を証明する書類を提出し、許可された

➤ 2009 年 1 月 1 日~2010 年 12 月 31 日まで猶予期間を申請 → 許可された

➤ 11 名について、回答が期限内に得られなかったため、Regulation Department へ照会された。うち 1 名が日本人 Mr. Yoshiro Ideguchi

(2 月 7 日)

- 委員会で、PLS (Professional Land Surveyor) 受験希望者の申請をレビューした。1986 年に Civil 工学位、学習課題履修証明 (何の課題か議事録に明記なし)、3 年間の土地測量経験を示す職歴表、土地測量経験を示す 8 通のリファレンス、及び Iowa 州から発行された、FLS (Fundamental Land Surveyor) 試験合格証明書を提出。PE として Oregon 州に登録されていることも加味し、2012 年 4 月の PLS 受験を許可された。

- Oregon 工科大学の Civil 工学部準教授からのメール要請に基づき、FE 又は FLS を受験した学生が卒業する前に試験結果を通知することが可能か検討した → 卒業前に受験はできるが試験結果を通知することはできないとし、要請を却下。

- 2011 年 10 月の試験において、試験問題と解答シート以外の物に書込みを行った受験者 2 名についてレビューを行った。NCEES は違反行為として、試験結果を無効とすることを推奨している → 委員会では、3 月 13 日のボード会議に本件を申し送りすることを決定した (注: 3 月 23 日時点で 3 月 13 日のボード会議の議事録は公表されていない)。

これから PE 試験を受ける人は要注意！

- 大学から電子ファイルで送付される卒業証明書を受入れるかどうか、ボードで検討したが、ハードコピーが必須との結論となった。
- Comity (他州エンジニア) 申請
 - Civil PE 申請者: 以前 Nevada 州で PE 及び PLS として登録されていた、Nevada 州との相互認証により California 州でも PE、PLS 及び地質学者として認定されていたことを示す文書を提出 → Comity 不許可
 - Structural PE 申請者: 1976 年 5 月に Civil 工学位、1977 年 5 月に Civil 工学修士学位、30 年以上の工学経験を記載した職歴表と、工学経験を証明する 5 通のリファレンスを提出。また Illinois 州から発行された、NCEES の FE 試験 (1976 年 5 月)、Civil の PE 試験 (2006 年 10 月)、及び Illinois 州特化の「State Constructed Structural」A2、B1 及び B2 試験 (1981 年 4 月) の合格証明も提出 → 要件を満たしていると決定し、3 月 13 日のボード会議での承認のためリストに掲載した。
- 受験申請
 - PLS 申請者: 2002 年に工学技術の応用科学系準学士 (Associate of Applied Science, AAS) 号取得、10 年 1 カ月の土地測量経験を記載した職歴表と、土地測量経験を証明する 5 通のリファレンスを提出。また Washington 州から発行された、NCEES の FLS と PLS の合格と登録の証明も提出 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の Oregon 特化の受験許可を決定した。
 - FE 申請者: 本人より、学歴及び職歴背景を考慮してもらおうよう文書で要請。2000 年 7 月に経営管理学位取得、2006 年春～2007 年夏と 2008 年秋～2011 年春の学習課題履修証明 (何の課題か議事録に明記なし)、及び 3 通のリファレンスを提出 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の FE 受験許可を決定した。
 - Mechanical PE 申請者: 締切日を過ぎて提出された証明書類を受け付けるかどうか、委員会で検討 → 遅れが申請者の責務ではないと判断し、受け付けることを決定した。
 - Civil PE 申請者: 本人より、supervise する professional のリファレンスの数を減ずるよう要請。2008 年 6 月に Civil 工学位取得、4 年以上の Civil 工学経験を記載した職歴表と、3 年 10 ヶ月の工学経験を証明する 6 通のリファレンスを提出 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の Civil PE 受験許可を決定した。
 - Mechanical PE 申請者: 本人より、学歴及び職歴背景を考慮してもらおうよう文書で要請。2008 年に Mechanical 工学位取得、3 年 4 ヶ月の mechanical 工学経験を記載し、supervise する PE の証明を得た職歴表と、工学経験を証明する 6 通のリファレンスを提出。また 2008 年 10 月の Oregon 州での FE 試験に合格している → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の Mechanical PE 受験許可を決定した。

- FE 申請者: 2002 年に取得した、Iraq 工科大学の Building and Construction 工学位についての、NCEES の認定評価を提出 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の FE 受験許可を決定した。
 - FE 申請者: 2007 年 5 月に Earth and Planetary 科学位取得、2000 年秋～2010 年春及び 2010 年夏に学習課題履修 (何の課題か議事録に明記なし)、2011 年 5 月に Civil 及び Environmental 工学の修士号取得 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の FE 受験許可を決定した。
 - PLS 申請者: 1992 年秋～2000 年春に学習課題履修 (何の課題か議事録に明記なし)、11 年 8 ヶ月の土地測量経験を示す職歴表と、土地測量経験を証明する 5 通のリファレンスを提出 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の PLS 受験許可を決定した。
 - Mechanical PE 申請者: 本人より、supervise する professional のリファレンスの数を減ずるよう要請。2005 年 10 月に Mechanical 工学位取得、2007 年に Mechanical 工学修士号取得、2 年 4 ヶ月の mechanical 工学経験を記載し、supervise する PE の証明を得た職歴表、mechanical 工学経験を証明する 7 通のリファレンス、及び Washington 州から発行された、FE 試験合格証明を提出 → 要件を満たしていると決定し、2012 年 4 月の Mechanical PE 受験許可を決定した。
- 再申請: 1 回目と 2 回目の受験で合格点に達しない場合には、更なる受験準備を行ったことを証明する書式を提出する必要がある → 29 名の申請者のうち、19 名は 2012 年 4 月の受験資格を得た。6 名は 2012 年 10 月、4 名は 2013 年 4 月の受験資格を得る可能性がある。
 - CPD (Continuing Professional Development) 監査
 - ある申請者が 30 CPD 時間を免除するよう要請していたが、却下された
 - 別の申請者は、提出書類が十分と見做された
 - 4 名について、回答が期限内に得られなかったため、Regulation Department へ照会された。

PE-0145 鈴木 央

PE 登録リファレンスに関して

教育部会副会長 阪井敦

Professional Engineer (PE) 試験が日本で受けることができるようになり、PE試験に合格したが、社内にPEがおらず、PE登録のリファレンスをどう獲得するか悩んでおられる方も多いと思います。JSPEでは、そのような方への支援を行っており、以下にJSPE所属のPEがリファレンスを書くことができる例を示します。ただし、リファレンスには申請者のgood character and reputationが求められており、以下の活動に参加により必ずリファレンスが得られるものではないことをお断りしておきます。

(1) JSPE主催セミナーに参加

JSPE 主催セミナーには必ず、JSPE 所属の PE が参加しております。単にセミナーに参加するだけでなく、PE と知り合いになり、1 年以上交流を深めることにより、申請者の技術的なレベル、倫理観などを知ってもらうことが重要になります。教育部会の鬼金分会では、プロジェクトマネジメントに関するセミナーコースを 1 年間開催し(4h×10 回)、そこで Project Management Professional (PMP(R))の資格取得をめざして学習する過程から、申請者の技術的なレベル、倫理観などを判断して、リファレンスを書いた例があります。

(2) アドホックコミティへの参加

例えば、企画部会で開催している「H23 アドホックコミティ」では、8 名の PE 会員と 2 名の PEN 会員が参加し、「製品安全性に対し技術倫理をどう活用するか？」をテーマとして、各自が自宅にて欧米の「技術倫理」の教科書を読んで学習して、年度末に報告書を書くことを目標としている。遠隔地の場合は、このような活動で、申請者の技術力や倫理観を示すことが可能となります。

(3) JSPE活動への積極参加

JSPE 活動に参加して、PE 会員と知り合いになることができます。JSPE では、会員部会、企画部会、教育部会、渉外部会、広報部会、総務部会で活動していますが、各部会ではボランティアで参加いただける部会員を募集しております。東京周辺でしたら、直接参加できますが、遠隔地でも可能なボランティアはありますので、JSPE までお問合せ下さい。

PE が社内にはいない、地方勤務であることを理由に、PE 登録をあきらめることはありません。上記の(1)～(3)の例のような活動で、リファレンスを獲得している人もたくさんいます。ただ、接触する密度は低いので、1年ではなく2～3年程度のスパンで計画していただいたほうが良いと思います。JSPE 活動では、①会員メール、②JSPE ホームページ、③JSPE マガジン等で活動のご案内を行っておりますので、自分にあった活動に是非ご参加下さい。

合格体験記

PE 試験合格体験記 1

PE試験合格体験記

1. 氏名：荻島知之
2. 会員番号：PEN-0074
3. 専門分野：Civil (Structural)
4. 試験日：2011年10月30日
5. 使用した参考書
 - ・ Civil Engineering Reference Manual for the PE Exam, 11th Edition
 - ・ Practice Problems for the Civil Engineering PE Exam, 11th Edition



-
-
-
-
-
6. 試験当日持ち込んだ図書
 - ・ 上記参考書
 - ・ Unit Conversion (PPI 社)
 - ・ AISC – Specification for Structural Steel Buildings
 - ・ Standard Handbook for Civil Engineers (Mc-Graw Hill 社)

7. 体験記

(1) PE 試験受験までの道のり

2000年12月頃：大学に掲示されていたポスターを見て、PEの存在を知る。漠然と「海外で活躍するエンジニアになりたい」と思っており、英語と専門知識を一緒に勉強できるいいチャンスとPEに興味を持った。調べてみると、1次試験であるFE試験は学生でも受験できることがわかり、勉強スタート。

2001年10月：当時大学院1年で頭がフレッシュかつ勉強時間が容易に確保できたこともあり、1回目のチャレンジ（2001年10月実施）でパス

2002年4月：就職後もPEになりたいなと思いつつも、①受験資格に実務経験があったこと、②日々の仕事の忙しさに忙殺されたこと、③周りにPEの方がいらっしやらなかったため、たとえ試験に合格できたとしても登録できないとの思いがあったこと、からPE試験に対するモチベーションが上がらず、特に何もせず。

2005年7月：入社3年目にシンガポールへ異動となり、石油・天然ガス掘削用の海洋鋼構造物の強度設計や施工設計・計画・管理に携わる。海外で働くようになり、PEに対する憧れがより強くなった。そこでReference Manualを購入するも、仕事が多忙を極め勉強する

時間が確保できず。そうこうする間にReference Manualが改訂されたのを知り、一気にモチベーションダウン。

2011年4月：入社10年目を迎え、35歳までに何か資格を取得したいと強く思うようになり、PE試験に挑戦することを決意。2012年4月の試験を目標に勉強開始する。

2011年5月：担当プロジェクトのスケジュール変更により、現場施工が2012年5月までずれ込むことが判明した。そこで、前倒しで試験を受けることを決意。2011年10月をターゲットに軌道修正。

(2) 勉強方法

- ① 自分の専門分野である Structural、Construction と現在の業務に関係する分野である Water Resources の1部 (Hydraulics) や Geotechnical は取りこぼしの無いように集中的に勉強した。(専門外の分野は捨てる、回答できたら儲けものというスタンスだった。)
- ② Practice Problem の問題を解き、Reference Manual や大学時代の教科書から回答に必要な公式や周辺知識を拾い集めて知識を拡充する方法で進めた。
- ③ Practice Problem の問題レベルが高く、専門分野であっても思うように進まず、かなり焦る。そこで、実際のテスト問題のレベルを確認するため、「NCEES - Civil: Structural Sample Questions + Solutions」を購入した。内容を見たところ、Practice Problem よりも Reference Manual の Example 程度のレベルであることに気付く。(初めから試験のレベルを確認しておけ！とお叱りを受けるかもしれませんが。)
- ④ 2011年7月頃から、急遽 Example を中心とする勉強に変更。問題を解くというよりも、模範解答や回答に必要な公式や周辺知識を理解することに重点を置いた。勉強法を変更してからようやく進捗が上がり始めた。
- ⑤ 実際の試験を意識し、どこに何が書いてあるかインプットしたり、Reference Manual に Index を付け試験中検索しやすいように工夫したりした。
- ⑥ 相変わらず仕事は多忙で、出張も多く、なかなかまとまった勉強時間が取れない。勉強時間は平日夜@自宅と土曜日@図書館がメイン。日曜日は趣味のサッカー&フットサルや息子と遊ぶ時間にあてて、仕事及び勉強によるストレスがたまらないよう心掛けた。そのかわり、会社の昼休みや移動時間など細切れ時間を活用するよう意識した。そのため Reference Manual は分野ごとに切断し携帯しやすい形にした。
- ⑦ 専門分野については試験範囲すべてをカバーすることができたが、専門外分野についてはどこに何が書いてあるか理解した程度。例題に似た問題が出てくれないと厳しい状況だった。

(3) 試験

試験日の前々日：シンガポールから日本へ帰国。実家に戻り参考書を開くも、久しぶりの日本に心が躍り勉強に集中できない。

試験前日：試験会場近くのホテルに宿泊。自宅から通うこともできたのだが、睡眠時間を優先して会場の近くに宿をとることにしたのだが、会社から仕事に関する問い合わせが相次ぎ、その対応に追われ勉強どころではなかった。

試験当日：とにかく最後まであきらめないことを心に誓い出陣。10月とはいえ、常夏の南

国になれた体には応える寒さがきつかったのを覚えている。

AM：専門外の問題が Reference Manual の Example や Sample Questions に酷似した問題ばかり！参考書を参照して全て回答することができた。専門分野も難なく全て回答。手ごたえ十分！

昼休み：頭をリフレッシュさせるため、敢えて何も考えないようにぼーっと過ごす。

PM：後半は得意な Structural の問題がメインなので、問題なくいけるだろうと思っていたところ、予想以上に手ごわい問題が多くかなり焦る。AM の出来がかなり良かったので、PM でちょっとこけても大丈夫だろうと勝手に開き直り。回答できる問題から手を付け、試験時間内に全問回答することができた。

AM4 時間、PM4 時間の長丁場だったが、試験中は集中することができ、特に疲労感なども感じることはなかった。普段の激務のおかげかもしれない。

試験後：試験の手ごたえは悪くなかったので、おそらく大丈夫だろうと思っていたが、再受験になると旅費や受験料が必要になるので厳しいなと暗い気持ちになることもあった。

年末 12 月 25 日に合格通知が来たと実家から連絡があり、嬉しいと同時にこれで再受験しなくて済むとほっとしたというのが本音だった。

(4) 総評（勝因）

- ・運が良かった！（専門外分野の試験問題に恵まれた）
- ・試験範囲を考慮し、得意分野にフォーカスして勉強したこと。
- ・隙間時間を有効に使うことができたこと。
- ・趣味の時間（サッカー&フットサル）を犠牲にせず、オンとオフの切り替えがしっかりできたこと。
- ・日常の業務で海外基準、米国単位系を使用することが多かったため、PE 試験の問題にも違和感がなかったこと。
- ・常に英語を使う環境にいたので、英語を読むことに慣れていたこと。

(5) 抱負

まずは州登録して、PE を名乗れるようになること。そして、PE の名に恥じないようなエンジニアになることを目標に努力していきたい。JSPE の活動にも積極的に参加していきたいと思っていますので、今後ともよろしく願いいたします。

「PE マニュアル (仮称)」 編集中!

2003 年に JSPE が発行した「PE 試験受験 TIPS」は会員/非会員を問わず好評を博し、2007 年には内容を更新した第2版を発行しました。その後、NCEES/JPEC による日本試験が定着するにつれ、従前の PE 試験合格は即 PE 登録 から PE 試験に合格してから PE 登録 のケースがほとんどとなってきたこともあり、今一度 PE ライセンス制度の原点を見据え PE 受験および PE 登録 に対応する必要が生じています。

そこで内容を一新した「PE マニュアル(仮称)」を 理事会有志にて鋭意編集中です。

今のところ、次のような目次内容とすることで 6 月 9 日の年次総会でみなさまにお配りすべく準備を進めています。

Engineer	技能者
技術者	Engineering Ethics
Professional Engineer	
Scientist	技術士
技術倫理	Technologist
Technician	科学者

「PEマニュアル(仮称)」表紙
(イメージ)

<ul style="list-style-type: none">○ 米国PEライセンスの概要<ul style="list-style-type: none">- PE は各州が定める公的ライセンス- 米国内でのPEライセンス標準化の動き- PE制度の米国外への広がり- 各州のPEボード- Code of Ethics および Model Law- NCEES および NSPE○ 日本における PE の増加<ul style="list-style-type: none">- 高度成長期における日本の技術者- オレゴン州 日本 PE 試験時代- NCEES/JPEC 日本 PE 試験- 日本人エンジニアが PE 取得することの価値・意義○ PE ライセンスの取得と維持<ul style="list-style-type: none">- PE ライセンスのライフサイクル- Engineer の定義- ABET 学歴審査- PE 試験および FE 試験- 業務経験申告と PE リファレンス- 州法および技術倫理に関する試験- ライセンス更新、CPD 要求-	<ul style="list-style-type: none">○ PE 制度に関する Q&A○ 各州の PE 法特徴 および会員体験記<ul style="list-style-type: none">- オレゴン州- ワシントン州- テキサス州- カリフォルニア州- フロリダ州- ニューヨーク州- ワイオミング州- サウスカロライナ州- ルイジアナ州- デラウエア州- アイオワ州- ミシガン州- ノースカロライナ州
---	--

この「PEマニュアル(仮称)」へのご要望、投稿ご希望、表紙デザインご提案などありましたら、4 月 15 日までに PE登録推進チーム pepr2011@jspe.org までご一報下さい。

理事 川村武也

PE 会員のためのページ

私の PDH audit 体験

2012 年 3 月 20 日

PE0059 木村一夫

2012 年 2 月、PE ライセンスの更新に関する Audit を受けました。まだ受けたことのない人の参考になると思い、経過を記します。まず、今回学んだ教訓と判明した疑問点をまとめておきます。

- ① 自分は関係ないと思っていても、当たる？時は当たります。油断禁物です。
- ② 通知は郵送で来て、資料を郵送で送るかえすとすると、発信日から一か月後が締切であるから、実質、きわめてあわただしい日々となります。
- ③ 査察そのものはあまり厳しくはないという感想です。JSPE 理事会でも議論になった語学研修等の技術に直接関係ないトレーニングでも CPD と認められるかという点については、結果的に答えは Yes でした。根拠資料さえあれば大抵のアクティビティをリジェクトしていない（CPD と認めている）のではという印象でした。

少し詳しく述べると、①の油断禁物の件ですが、油断の原因は 2 つあって、一つは、通常の更新月（私の場合 2011 年 6 月）と査察の間に 8 か月のタイムラグがあることです。2 年に一度の更新手続きを終えて、新しいカードももらおうとどうしてもホット一息、人によっては、更新が全て終わったと思って、手持ちの資料等を片づけたり、処分したりするでしょう。これが最悪。半年強後にいきなり査察だといわれて、資料の行方を捜したりしていたら時間がたりなくなります。もう一つの原因は、査察対象の選抜？確率にあります。通知によると、コンピューターで全会員の 3 % の人をランダムに選んでいるそうです。が、個人的には文面を信じていません。周りの人はもっと当たって？いる気がします。私もくじ運は悪い方で、宝くじは当たったことがないし、3 % であれば、30 回に 1 回当たる確率で、まだ 5 回しか更新したことがないのに、早々にあたるのは、日本人をそれも年寄りを作画的に狙っているとしか思えないと憤慨したことです（笑）。とにかく他人ごとではありません。

②の短期間の処理については、以前、鈴木央 PE の経験談でも触れていましたが、大変、忙しいです。私の場合、1 月 26 日付の通知が 2 月第 1 週に届いて、提出期限が 2 月 25 日でした。大急ぎで資料を作成し、2 月 15 日、国際スピード郵便（EMS）で送りました。その結果、2 月 23 日付で Sufficient Note のレターが送られてきて、CPD Audit に通ったことを知りました。

提出した資料は半年前提出した、

Continuing Professional Development Hour Organization form を再度と

それを裏付ける資料 Copies of supporting documentation (PDH 時間の記載が有るもの)

一式です。

私の場合、ほとんどが

JSPE の CPD セミナーの受講証明書でした。全 20 枚の資料です。内訳は 4 種類です。

- a) JSPE の CPD セミナーで英語教育関係 : 17 時間
- b) 鬼金セミナーのプロジェクトマネジメント教育 : 32 時間
- c) PE 試験プロクター (2 回) : 4 時間
- d) JSPE 理事としての活動 : 2 時間
- e) その他 (空母 GW の見学など) : 5 時間

で、合計 60 時間分です。b) を除いて何か指摘されるかもしれないと予想していましたが、何も指摘はありませんでした。a) は、内容よりも、JSPE 発行の Certificate だったことが幸いしているようです。十分、信用度はあります。c) は本来ボランティアなので、CPD には含めるべきではないという内部の意見がありましたが、州ボードの反応を見る意味で記載しました。反応はありませんでした。d) も上限があったと思ったので少なめに申請しました。

以上、学んだことは、

① 査察は忘れたころにやってくる。

② 備えあればうれいなし。

でした。

日頃からいつでも Audit に応じられる様に資料はまとめて置かないと、提出までの日数はタイトです。資料の送付方法については、必ずしも、EMS や FEDEX によらなくても良さそうです。前記鈴木さんの経験談では、電子ファイルで送ったようで、認められたようでした。ただ、現物送付の場合は、勤務の合間に郵便局や Fedex を利用できる日にちは限られてくるからそれも勘定して作業をする必要があります。

以上です。この記事が、これから査察を受けるあなたに役立てば幸いです。

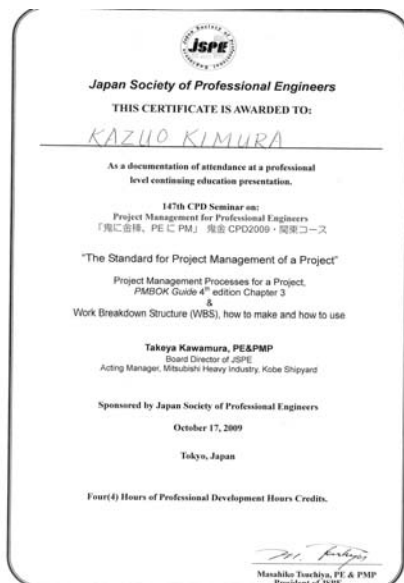


図 1. CPD Organization form

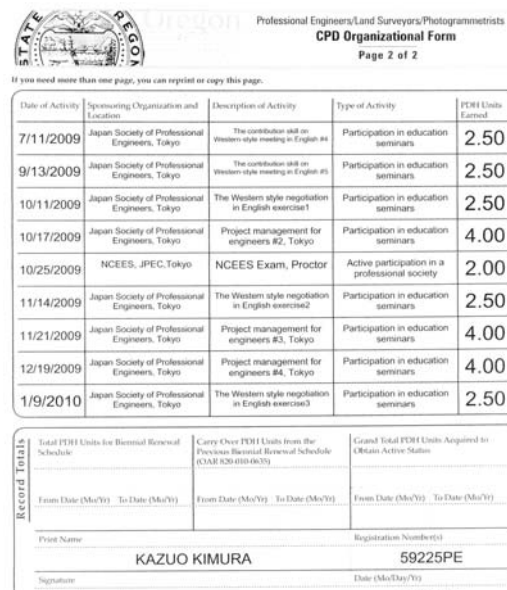


図 2. CPD certificate document の例

海外からの連絡

PEとして海外で働くということ

－香港での体験談－

PE-0156

汐崎亮介

現在、私は香港において、香港では初となる土木技術を用いた試験工事に従事しております。この土木技術は、40年近く前に日本で開発及び実用化されて以来、日本国内に留まらず多くの施工実績を持つものです。残念ながら、顧客との守秘義務等により、具体的な技術内容をこの場で申し上げるわけには行きませんが、PEとして国境を越えて働くことの魅力を伝えたいという思いから、私の体験談や現場で感じたことなどをご紹介します。もちろん、この土木技術に精通しているだけではなく、米国PEのライセンスが無ければ、今回の試験工事に参入させてもらえなかったことは言うまでもありません。

平野部の少ない香港において、海の埋立工事が盛んに行われております。埋立地を支える強固な基礎地盤を提供するためには、海底に堆積している軟弱地盤を改良したり、浚渫作業により取り除いたりすることが一般的に行われております。しかしながら、都市の生活行動や産業行動の結果、多くの汚染土が発生し、従来の方法だけでは環境問題を克服することが難しくなりつつあります。そこで香港の技術者達に着目されたのが、この日本で独自に開発された土木技術というわけです。これまで、この土木技術が日本国内で環境対策として用いられることは少なかったのですが、国際的技術者チームを擁する香港では前例や慣例に囚われない発想から、この土木技術は環境問題を克服しつつ埋立工事を推進することのできる画期的な技術として注目されています。

既に日本国内では一般的になっている土木技術とはいえ、香港では初めてであり注目の的となりました。したがって、工事現場は各種政府機関の技術者や大学の教授等の訪問を何度も受け、私は質問攻めに遭いました。私が受けた質問の中から、最も興味深かったものを一つ紹介させていただきます。その質問の内容とは、工事で用いるセメントスラリーの圧力はどのように管理及び調整しているのかというものでした。その他多くの土木工事と同様に、今回もセメントを用いる工事だったのですが、今回はセメントスラリーの注入圧力を管理する方法ではなく、注入量を管理する工法でした。恥ずかしながら、私はこれまで前例に倣うだけで、この注入圧力について考えたことは無かったのですが、今回初めて注入圧力について質問を頂き、改めて基本から考えさせられました。この質問を受け、私は学生時代に学んだ水理学と土質工学を思い出しながら、理論的にセメントスラリーを注入するための圧力は足りているが、現場を破壊するほど強い圧力でも無いということを根気良く説明し、無事に質問者の皆様に納得して頂けました。このとき、FE/PEの試験問題は、こうした事象を解決するための論理的な思考や計算手順が効率よく試されるよう、よく考えられて作成されいたものだと改めて思い出しました。

これまで私は主に設計に携わってきて、現場での作業に関しては素人同然だったのですが、今回の試験工事で多くの訪問者から設計と現場作業に関する質問を受け、自分でも多くのことを勉強しました。おそらく、技

術的に成熟している日本国内のみで仕事をしていたら、このような機会は無かったことでしょう。非常に良い経験となりました。

また、こんな笑い話もありました。ある日、都市部で寒さは感じられなかったため、薄着のまま工事現場に赴きました。ところが、都市部とは打って変わって、現場は非常に寒い環境でした。当然ながら、地域の事情を良く知る現地技術者の皆さんは厚着で防寒対策は完璧ですが、私だけが薄着です。仕方が無いので、私は凍えながら仕事をこなしたのですが、仕事が終わった帰りに、現地の技術者達が私のほうを見てなにやら真剣に話をしています。何だろうと思って彼らに聞いてみたら、日本人技術者は高度な技術で作られた日本製の服を着ているので、薄着でも寒くないのだろうと言うではないですか。とんでもない。私は特別な服を着ていたわけではありません。事情を話して、皆で大笑いしました。笑い話となりましたが、それだけ高度な技術を持っていると思われていたということです。

以上、簡単な体験談となりましたが、興味を持っていただければ幸いです。

会員からの投稿

大阪電気通信大学 2011 年度「国際工学技術者育成セミナー」完講報告

PE-0158 北林孝顕

PE-0194 渋谷高広

1. はじめに

大阪電気通信大学「国際工学技術者育成セミナー」の非常勤講師業務について以下に報告します。本講座は、大阪電気通信大学が大学院生を対象に開講している「FE 受験を指南する単位講座」です。2010 年度までは竹政 PE が日本 PE 協会理事の立場も兼ねて講師業務を担当してきましたが、2011 年度から渋谷 PE と北林 PE の 2 名がこれを引き継ぎました。

2. 概要

講義の概要は次の通りです。

- ・ 大阪電気通信大学寝屋川キャンパスにて開講
- ・ 前期 15 コマ（1 単位）、後期 15 コマ（1 単位）の計 30 コマ（木曜 4～5 限（14:40～17:50）もしくは土曜 1～3 限（9:00～14:30））
- ・ 2011 年度受講者は工学研究科大学院生 9 名

大阪電気通信大学大学院 工学研究科
制御機械工学専攻
Osaka Electro-Communication University
Graduate School of Engineering
Division of Mechanical and Control Engineering

共通

テクニカルコミュニケーション1、2
国際工学技術者育成セミナー1、2

先端技術工学特論
ゼミナール1、2、3、4
特別研究1、2、3、4

新聞 雅俊、竹田 晴見
西原 一高、森 幸治、
小笹 俊博
客員教員
指導教員
指導教員

テクニカルコミュニケーション

エンジニアとして活躍する上では様々な文書を作成し、口頭発表を行う必要があります。そこで大学院の学生にふさわしい工学系の英語の読み・書き・聞き取りなどの基本能力を身につけるための方法について講義を行います。高度な工学英語を身につける前の基本となる、数学と物理学を英語で勉強して問題を解決できる能力を身につけることを第一の目標としています。

3. 講義内容

3-1. 講義の狙いと構成

昨年まで講義を担当されていた竹政 PE から「若い感性」で講義を組立てて欲しいとのメッセージを頂いたため、全くのゼロから講義内容を構築することにしました。そこで、この講義の目的は何なのか、目指すゴールは何なのか、何を伝えたいのかを明確にすることから始めました。我々が定めた講義の目的は、講義を通じて講師陣が考える「グローバルに通用する人材の要件」を伝え、学生自身なりに考えながら咀嚼してもらうこと、でした。

我々が考える「グローバルに通用する人材の要件」とは次の3点です。

- ① 自分の意見を自分の言葉で伝えることができる—どんなことにも興味・疑問を持ち、それを自分なりに解釈して説明することができる、そのような癖をつける。
- ② 多様性（ダイバーシティ）を受容できる—他国の文化を理解する。同時に自国の文化も理解し、その差を知らなければ比較ができない。その上で相手の言動を理解できる。
- ③ 現状を的確に捉え、目標に向けたマネジメントを行なえる—スピードが求められる現在では手持ちの武器とすぐに調達可能な武器で即決即応が求められる。そのためのマネジメントと、中長期的なマネジメントを使い分けることができる。

これらを伝えるには、単なる FE 受験のための問題解放のコツや勉強法を教えるだけでは足りません。そこで、「個別講義」と「チーム研究」という2本柱の講義体系としました。

3-2. 個別講義

「個別講義」では、FE 試験レベルの問題の解説を行うことを基本とし、必ず小テストも行いました。機械系の学生ばかりだったので4力を中心に、FE 試験の SPEC で割合が多く割かれている項目を優先的に解説するものです。しかし、大学の講義で行うような授業を我々がやる意味は薄いだろうと考え、実務ではどのような考え方で公式などが使われるのかなど、考え方を伝えることを重視しました。また、実際の現場で起きた技術的課題に対して、FE 試験レベルの基礎的な知識をどう使って解決しているのかを、我々の業務経験から解説する時間を設けました。

ところが予想以上に技術的知識よりも英文読解に苦労していることが分かったため、後期の授業からは冒頭5分程度英語の文章を読んで内容を理解する練習を加えました。試験でも英語を読むスピードの遅さは致命的ですが、今後仕事をする上でも英語が読めるのと読めないのでは参照できる資料の量に大きな差が生まれます。FE 試験対策そのものの時間は圧縮されましたが、他国の情報にアクセスするハードルを下げることで多様性理解の入口になると考えています。

3-3. チーム研究

2011年度からは、個別講義とは別に「チーム研究」という講義を新たに設けました。学生は約2ヶ月の間、講師が与えたテーマについて1チーム2~3名でライブラリーリサーチベースの研究を行い、期末に最終発表を行うという講義です。ただ最後に発表するのではなく、より深く考察して貰うために中間報告をしてもらい、論理的な破綻が無いか、他の視点は無いかといった講師からの指摘事項も織込むよう促しました。

前期のテーマは「震災復興で生きるすごい技術」としました。最終発表では、「選んだ技術は?」「その技術はなぜすごいと言えるのか?」「その技術が震災復興にどのように役立つのか?」について発表してもらいました。各チームのテーマは「バイオマス」「ロボット」「ファイトレメディエーション」だったのですが、震災

復興という関心の高いテーマだったからか、どのチームの発表もよく纏まっていた。

後期のテーマは「失敗事例から得られる教訓」としました。最終発表では、「選んだ事例は？」「技術的にどんな問題があったのか？」「技術者の心構えに問題はなかったか？」「この事例から得られる教訓は何か？」について発表してもらいました。ここでの真のテーマは「技術者倫理」。学生には「回転ドア事故」「エレベータ事故」「タイヤ脱落事故」の事例を通して、「技術者が最も優先すべきことは何か？」について深く考えてもらいました。

チーム研究は初めての試みだったのですが、学生にとっては他の技術や技術者倫理を学ぶ良い機会になったのではないかと考えています。

4. むすび

4-1. 講師所感

渋谷 PE：学生は単なる知識だけより、具体例を示しながら解説をすることで自身の得意科目の理解をより深めたようです。英語を含めた苦手分野にどう取り組んでもらうかが今後の課題になります。

北林 PE：学生は予想以上に真面目です。（少なくとも私が学生だった時よりも...）ただ、英語が苦手な学生が多いので、いかに英語アレルギーを克服するかが、講座のカギになると思います。



職場で歓談する 北林(左) と 渋谷(右)

4-2. 今後の展望

2012 年度からすべて土曜の集中講義とします。また、講義名称を「国際工学技術特論 1、2」と変更し、単位も年間 2 単位から 4 単位へ増やす予定です。これらによって、本講座への受講者数が増加することを期待しています。これと同時に FE 合格者を出せるよう、講義内容のブラッシュアップにも力を入れるつもりです。そして、将来的には、本講座を他大学でも開講し、日本 PE 協会として工学系大学におけるグローバル人材育成に微力ながら寄与したいと考えています。

(投稿 2012 年 3 月 13 日)

理事会ニュース

会員部会

3月10日(土)に学士会館にて40名の参加で昨年10月試験の合格祝賀会開催致しました。

合格者の参加はPE試験合格者11名、FE試験合格者17名(全員非会員)。

州登録ノウハウのプレゼンテーション後、合格者とPEとの情報交換を行いました。



FE/PE 合格祝賀会

教育部会

教育部会 CPD セミナーについて

1. 鬼金 CPD2011・関西コース(全10回コース)

2011年度の「鬼に金棒、PEにPMP」鬼金CPD2011・関西セミナー全10回のうち8回は4月～12月に終了しましたが、1月～3月は、以下の3回を神戸元町の兵庫県民会館で実施しました。

(1)2012年1月14日(土) Project Procurement Management

(講師：川村武也(JSPE副会長))

(2)2012年2月4日(土) Project Integration Management & PMP

(講師：阪井敦(JSPE理事))(講師：川村武也(JSPE副会長))

2. 鬼金 CPD2011・関東コース(全3回コース)

*PMBOK® Guide 4th Edition*を基にして、講師の経験を踏まえたCost、Scope、Timeに関するプロジェクトマネジメントセミナーを東京で3回計画しました。9月にCost、11月はScopeを実施し、1月～3月は、以下のTimeを東京飯田橋(NSRIホール)にて実施しました。

(1)2012年1月21日(土) Time Management - Study of Methods and Parameter

(講師：鈴木央(JSPE会員))

3. 関西英語 CPD2012(全10回コース)ガイダンス

2012年2月4日(土)に、2012年4月から計画している関西英語セミナーのガイダンスを神戸元町の兵庫県民会館で実施しました。ガイダンスには15名(うち説明者2名)が参加しました。

(教育部会部副会長 阪井)

Coming event

2012年4月15日 PE/FE 試験

2012年6月9日 JSPE 総会

新入会員紹介

新入会員紹介

敬称略、順不同

■氏名： 山口 雅弘 FE-0366

■資格：FE、PMP、英語

■専門分野：系統変電、建設工程管理、品質管理

■入会動機：PEを目指すエンジニア向けにセミナーが開催され、会員相互の情報交換の場が提供されている為。

■自己紹介：お初にお目にかかります。神奈川県横浜市出身、兵庫県西宮市在住で、某電機メーカーにて海外（主に中近東、東南アジア）の変電プラント建設に関する業務に従事しております。漫然と業務を熟しているのみでは周りとは変わらなないと考え、興味があったPEを目指すことを選びました。これに積極的に挑戦し、自分の可能性を広げ、今日の前にある選択肢ではなく、今は定かでない高嶺を掴みたいと思います。現在の趣味は、芦屋と苦樂園と夙川を散策し、猪に巡り逢うことです。



■JSPEに望むこと：

この度はJSPEに入会させて頂き、有難うございました。プロジェクト経験豊富な賢者の御知恵を拝聴させて頂きたいと思っております。そして会員の皆様と価値観を共有出来ることを楽しみにしています。

■氏名： 寒河江 悠 AF-0065

■資格： 一般会員

■専門分野：化学工学

■入会動機：今回、JSPEに入会しようと考えた一番の目的は、自身の能力の向上にあります。私は、現在の会社に在籍し6年になりますが、現状の職務で伸ばした能力と私が伸ばしたいと考えている専門性に若干のずれがあります。会社の中で、職務を確実に遂行することを第一と考え、これまで業務に取

り組んでまいりました。しかしながら、現状を繰り返していく中で、今後、自己実現が明確になされるのか迷いがあります。自身にとって形になる目標をと考え、PE/技術士の取得を挙げ、当該の資格を30代に取得したいと思いたちました。しかしながら、PE取得につきましては、情報量があまりなくどこから手をつけてよいのか分からず迷っていたところ、JSPEの入会という事象があり、本入会を通して、PE取得を達成できる一助としたいと考えております。

そのため、PEになったらどうするのか、社会に対して自分は何が出来るのか、といった明確なビジョンはまだ持っていません。しかし、このような会に入会することで、いろいろな方の考えに触れ、自身の考えや視野を広げ今後の自分に繋げていければ幸せだと考えています。

■自己紹介：現在、私は製薬企業の品質管理部門に在籍しております。製薬企業に入社して、6年経過しましたが、「薬」を製造することの難しさを日々感じております。「薬」は生命に直結するものであるため、一度「製造法」や「分析法」を固めると、なかなか変更ができません。ですので、製造法や分析法を決定する作業は、非常に重要だと、日々感じております。現在自身は、製造法や分析法を「作る」側ではなく、「使う」側です。「使う」側がより使いやすいようにしていくことが地道な改善活動だと考えていましたが、それでは頭打ちになるのかとの不安もよぎります。

自身の趣味について、少し触れます。中学・高校とサッカーをやっていたため、現在も長期連休や休日は、フットサル(サッカーの小さいもの)を時間があればやります。ただ、今は長女が生まれて間もないため、休日はめっきり長女の面倒をみて1日が過ぎていきます。

■JSPEに望むこと：

これから、JSPEに入会し、JSPEはどんなところか分からない人間が「JSPEに望むこと」を書くのも不思議ですが、あえて書かせていただくと、「PEって何？」という感情をより多くの人から取り除くことかなと感じます。例えば、PEの利点は？/PEになるためには？/日本におけるPEの役割と位置づけは？等素朴な疑問に率直に答えてくれる機関であれば幸いです。

■氏名： 木下 遥 AF-0066

■資格： 技術士補(電気電子)

■専門分野：電源回路設計

■入会動機：日本技術士会の集まりで、技術士・PE両方の資格を持っていらっしゃる方から米国PE制度について説明していただき、興味を持ったため

■自己紹介：電機メーカーにて、電源回路設計の仕事をしております。FE試験にはまだ合格しておらず、今年4月の試験に向けて現在勉強しているところです。よろしく願い致します。

■JSPEに望むこと：

今春開催の、JSPE 英語講座に申し込ませていただきました。業務では、なかなか海外事情や英語に触れる機会がないため、JSPEの活動を通じ、「国際的に通用する技術者」をめざして行きたいと考えています。



編集後記

昨年(2011年)の3月11日に東日本大震災から一年が経過した。津波と地震の被害に対しての復興は進んでいるが、福島第一発電所2号機の格納容器の水位がわずかに60cmしかなかった事、東電柏崎6号及び北電泊が定期点検にはいるため日本の原発は全停する事態となり、依然原子力発電問題は先が見えない。政治と住民問題が加わり技術問題のみでは解決出来ない状態である。

JSPE magazine に関してのコメント、感想は edit.2007@jspe.org をお願いします。

編集委員

編集責任者：神野

Ethics 編集委員：田崎

会員紹介編集委員：西川

海外からの連絡：日野

合格体験記：丹下

新入会員：平山

州ボード情報：川村

オレゴン試験資格認定委員会情報：鈴木